

# 大日本地震史料 卷之二

自昌泰元年  
至正平十二年

延喜四年十一月十二日壬申、酉刻地震、

同六年三月一日甲寅、京都地震フ、

〔扶桑略記〕  
延喜六年三月一日甲寅、午刻地震、

昌泰元年五月七日乙亥、京都地鳴リ三回、

〔日本紀略〕

昌泰元年五月七日乙亥、地鳴三度、其聲似雷、

七月二十七日乙未、京都強震アリ、

〔日本紀略〕

七月廿七日乙未、大地震、

同二年九月七日戊戌、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

昌泰二年九月七日戊戌、地震、

延喜二年七月二十四日丁卯、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

延喜二年七月廿四日丁卯、巳刻地震、其響如亂聲、自遠響來

振動、

同四年十一月十二日壬申、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

同十六年六月二十九日壬子、京都地震フ、

三月廿一日庚子、午刻地震、

甲

震災豫防調査報告第十四六號

〔日本紀略〕

延喜十六年六月廿九日壬子、天陰雷鳴、地震、

〔扶桑略記〕

延喜十六年六月廿九日壬子、雷鳴地震、

延長二年十一月十七日辛巳、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

延長二年十二月十七日、戌刻地震良久、

同三年五月十九日庚戌、京都強震アリ、

〔吏部王記〕

延長三年五月十九日晴、午時大地震、

同四年一月一日戊午、京都地震フ、

〔日本紀略〕

延長四年正月一日戊午、午刻地震、

〔扶桑略記裏書〕

延長四年正月一日戊午、午刻地震、

四月十九日乙巳、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

四月十九日乙巳、未刻地震、

〔貞信公記〕

延長四年四月十九日、地震、

同六年三月八日甲寅、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

延長六年三月八日、卯時地震、

四月十七日癸巳、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

四月十七日、卯時地震、

六月一日甲戌、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

六月一日、夕地震、

承平元年一月十一日辛未、是夜、京都地震フ、

〔貞信公記〕

承平元年正月十二日、夜地震、

三月二日庚申、是夜、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

承平元年三月二日、子刻地震、

〔日本紀略〕

承平元年三月二日、子刻地震、

同二年一月二十五日丁未、京都地震フ、

〔日本紀略〕

承平二年正月廿五日丁未、地震、

〔扶桑略記裏書〕

三月二十一日癸卯、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>ニ</sub>

三月廿一日癸卯、地震、

〔扶桑略記裏書〕

四月一日癸丑、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>ニ</sub>

四月一日癸丑、地震、

六月二十六日丁丑、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>ニ</sub>

六月廿六日丁丑、地震、

同四年五月二十七日丙寅、京都地震フコト強ク、

京中ノ築垣多ク轉倒セリ、

〔扶桑略記裏書〕

承平四年五月廿七日丙寅、午刻大地震二度、京中所々築垣轉

倒、酉刻紫震殿南方東第二間砌下虹見、

同月二十八日丁卯、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

廿八日、卯刻小地震、

同月二十九日戊辰、京都又震フ、

六月三日壬申、京都兩次地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

十月十九日丙戌、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>ニ</sub>

承平四年十月十九日丙戌、地震雷鳴、

〔扶桑略記裏書〕

十月十九日、辰刻地震、戌刻雷鳴、

同五年一月二十八日癸亥、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

承平五年正月廿八日癸亥、地震、

二月十九日甲申、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

二月十九日、戌刻地震、

同月二十九日乙酉、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

二月二十日、午刻地震、

四月七日壬申、京都地震フ、

〔扶桑略記裏書〕

四月七日、辰刻地震、

同月十五日己卯、京都強震アリ、

〔日本紀略〕

承平五年四月十五日己卯、地大震、

天慶元年四月十五日壬辰、京都地大ニ震ヒ、宮中内膳司頽レ、其他垣牆ノ破壊スルモノ數ヲ知ラズ、餘震連月止マズ、

〔貞信公記〕

承平八年、○天慶元年四月十五日戌刻、地大震、其□□□有聲振

動、參入大内、

十六日、今日震動不休、昨夜内膳司屋臨死者四人、宮城四面垣多臥、京中人宅垣□□頽、自□□□害多數、不能具記、

十七日、地震不止、建禮門前有大稟事、依停賀茂祭也、又有地震事、内膳人死事、

十八日、地震不止、大内御誦□廿一寺爲御息災也、警固、

十九日、地震不止、

廿日、地震不止、内膳炊御□釜破、仍令占申、不吉、令神祇少副賴基重新申、

廿一日、地震不止、

廿二日、聊地震、

廿三日庚子、聊振、内御修法於台山令行、座主爲阿闍梨、伴僧廿人、

廿三日、振動如昨、

廿四日、左右獄所囚□□者卅人、殊可免狀、仰檢非違使別當、緣地震也、

廿六日癸卯、臨時御讀經始、百僧也、爲攘地震不祥也、地震、廿八日、有震動音、

廿九日、曉地震、晝有□□音、度々不止、御讀經竟、賜度□□五月六日、大地震、後聊鳴、□令不止、

七月、地震、

八日、地震、

十日、御修法延二箇日、地震、

廿一日、大地震後時々振鳴、不休于今、

廿二日戊辰地震、□大臣□□定恩赦事、即參大内、奉行改元、詔書朝綱維時共定申、天慶也、

天慶元年、改承平八年五月廿二日戊辰、爲天慶元年、

五月廿三日己巳、地震、左大辨來、令見法洞申元、即仰會赦可免事、又□□橘近安等犯過解文、即作依國解、可追捕官符、賜當國隣國事、

甲

震災豫防會報告第十四六號

廿四日、地震、

廿五日、辛未、仁王會、地震數々、

廿六日、夜地震、

廿七日、地大震、

廿八日甲戌、依天平例可令十五十八口寺、延曆寺、並有供寺  
寺三箇日間、轉讀最勝王經、爲地震也、又定賑給口書覆奏事  
等、左金口口、

廿九日、地震、

六月二日丁丑、最勝寺給、自今日始行、

三日、地震振、

十日、地震、

十一日、地震、

十六日、地震、以前日々不止、諸社使立、地震事祈申也、○下  
略

廿二日、五畿七道高名神五十四社可奉各度者一人之狀、貞崇  
律師祈申、有告文、

廿九日、昨今小地震、

卅日、地震、

七月三日、夜半地震、地振度々、

八日癸丑、十五大寺、延曆寺、並京邊諸社諸寺、令讀仁王經、  
爲御息災令口地震也、

十一日、聊地震、又度々振、

十二日、地震、

十三日、地震、內侍所遷清涼殿(賢力)貴所等同遷、

十四日、夜地震、

(日本紀略)二

天慶元年四月十五日壬辰、地大震、京中垣牆悉以破壞、內膳  
司屋顛倒、壓死者四人、陰陽寮占申、東西有兵亂事、

廿日丁酉、停賀茂祭、依內膳司人死穢也、

廿九日丙午、晝有動音、度々不止、自去十五日至今日十五箇  
日間、地震不休、

五月廿二日戊辰、改元天慶元年、依厄運地震兵革之慎、

廿六日壬申、大雨、河水溢、地震、

六月三日戊寅、雨降、地大震、

廿日乙未、地震、鴨河水大溢、入京師、多漂人屋、

十月九日、奉幣於宇佐八幡宮、祈消地震之災、

(扶桑略記)

天慶元年四月十五日、地大震動、天下舍屋、多以顛倒、地震之  
間、內膳司人死去、依件觸穢停賀茂祭、陰陽寮占云、東西可有

兵革、

(康富記)

(地震勘例)

天慶元年、二年

五八

天慶元年四月十五日亥一剋、大地震、宮城百官、東西兩京屋舍顛倒、築垣破損、內膳司九間屋顛倒之間、死者四人、令陰陽助出雲惟香卜筮地震之由、

承平八年四月十五日、大地震、音如雷、宮城百官東西京舍屋、並諸寺諸山堂舍佛像等、多以顛倒、

〔改元勘文部類〕  
承平八年五月二十二日、改元天慶、依御慎之上地震也、

十月二十一日甲午、京都地頻ニ震フ、  
〔日本紀略〕三  
十月廿一日甲午、地頻震、

同二年一月十一日癸丑、京都地頻フ、

〔貞信公記〕

天慶二年正月十一日、地震、

二月五日丁丑、是夜、京都二回地震フ、

〔貞信公記〕

二月五日癸酉朔、夜地震二度、

同月八日庚辰、是夜、京都地頻ニ鳴動ス、

〔貞信公記〕

八日、夜度々鳴動、

同月二十一日癸巳、京都地震フ、

〔貞信公記〕

廿一日甲午、地震、○ヨノ月癸酉朔ナリ、甲午ハ癸巳ノ誤ナルベシ

同月二十九日辛丑、京都地強ク震フ、  
〔吏部王記〕

天慶二年二月二十九日天晴、丑刻大地震、

三月四日丙午、京都又強震アリ、  
〔吏部王記〕

三月四日天晴、未刻許大地震、

同月六日戊申、京都地震フ、

〔貞信公記〕

三月六日、有震動、以前日々又如此、

同月十一日癸丑、京都地震フ、

〔貞信公記〕

十一日、地震、

同月十三日乙卯、京都地震フ、

〔貞信公記〕

十三日、地震、

同月二十三日乙丑、京都地震フ、

〔吏部王記〕

三月廿三日曇或晴、及曉更地震、

四月五日丙子、京都地強々震フ、

(和漢合符)

四月五日、大地震、天王去御殿、於常寧殿前築茅殿御之也、

同月三十日辛丑、是夜、京都地震フ、

(貞信公記)

四月卅日、夜半地震、

五月十日辛亥、京都地震フ、

(貞信公記)

五月十日、地震、

同月二十七日戊辰、京都地震フ、夜又震フ、

(貞信公記)

五月廿七日、早旦地震、夜亦地震、

六月三日癸酉、京都地震フコト強シ、

(吏部王記)

六月三日雨下、未下刻大地震、

同月十九日己丑、京都地強々震ヘリ、

(吏部王記)

六月十九日晴、午時大地震、

同月二十三日癸巳、京都地震フ、

(貞信公記)

六月廿三日、曉地震、

七月十六日乙卯、京都地震フ、

(貞信公記)

七月十六日、丑刻地震、

同三年三月十日丙子、京都地震フ、

(貞信公記)

天慶三年三月十日、地震、

同月十六日辛巳、京都地震フ、

(貞信公記)

十六日、地震、

同六年五月一日戊寅、京都地震フ、

(日本紀略)

天慶六年五月一日戊寅、地震、

同八年九月十二日乙巳、是夜、京都地震フ、

(貞信公記)

九月十四日丁未、是夜、京都地震フ、

天慶八年、九年 天慶元年、三年 天德二年 康保二年 安和元年

六〇

(貞信公記)

九月十四日、夜地震、

同九年一月二日甲午、京都地震フ、

(貞信公記)

天慶九年正月二日、曉小地震、

二月八日己巳、京都地震フ、

(日本紀略)三

天慶九年二月八日己巳、地震、

天曆元年二月三日己未、京都地震フ、

(日本紀略)三

天曆元年二月三日己未、申刻地震、

四月六日辛酉、京都三回地震フ、

(日本紀略)三

四月六日辛酉、卯刻地震三箇度、

同三年二月九日癸未、京都地震フ、

(日本紀略)三

天曆三年二月九日癸未、雷俄發一聲、申刻地震、

天德二年、是歲、京都地震フ、

(日本紀略)四

安和元年四月七日、午刻地震、

(日本紀略)五

九月十一日戊午伊勢例幣也、天皇幸入省院、宣命有辭別、天  
變地震物恠等事也、

○地震ノ日、未ダ見ル所ナシ、姑ク是歲ニ掲グ、

康保二年九月二十一日戊子、京都強震アリ、

(日本紀略)四

康保二年九月廿一日戊子、地大震、

同月二十二日己丑、京都地又震フ、

(日本紀略)四

廿二日己丑、又震、

同月二十三日庚寅、京都地又震フ、

(日本紀略)四

廿三日庚寅、又震、

十月一日丁酉、京都地震フ、

(日本紀略)四

十月一日丁酉、地震、

十一月廿五日辛卯、詔賑恤、免當年半餉、依天變地震兵庫火災也、

○是年九月二十一日、二十二日、二十三日ノ地震條ヲ併セ見ルベシ、

安和元年四月七日己未、京都地震フ、

(日本紀略)五

甲

震災豫防調査報告第46號

八月三日甲寅、是夜、京都地震フ、

〔日本紀略〕五

八月四日乙卯、去夜子刻地震、鳥獸驚鳴、

天祿二年四月六日辛未、是夜、京都又震フ、

〔日本紀略〕六

天祿二年四月六日辛未、子刻地震、

七月六日己亥、京都地震フ、

〔日本紀略〕六

七月六日己亥、地震、

同三年閏二月十四日甲辰、京都地強ク震フ、

〔日本紀略〕六

天祿三年閏二月十四日甲辰、寅刻大地震、申刻宜陽殿鳴、

天延元年三月二十四日戊寅、京都地震フ、

〔日本紀略〕六

天延元年三月廿四日戊寅、寅時地震、

九月二十七日丁丑、京都強震アリ、

〔日本紀略〕六

九月廿七日、辰刻地大震、

〔改元勘文部類〕  
十二月二十日庚子、今日改元天延、依天變地震也、有赦令、免調庸、老人賜穀、

天祿四年十二月二十日改元、爲天延、依天災地震、

貞元元年四月十一日丁未、是夜、京都強震アリ、

〔日本紀略〕六

貞元元年四月十一日丁未、今夜大震、

六月十八日癸丑、山城、近江二國、地大震ヒ、京

都八省院、豐樂院、東寺、西寺、極樂寺、清水寺、圓覺寺等顛覆シ、近江國分寺大門倒レ、關寺大佛碎損シ、國府廳以下雜屋三十餘宇顛倒セリ、餘震連月

止マズ、

〔日本紀略〕六

六月十八日癸丑、申刻地大震、其響如雷、宮城諸司多以破壞顛倒、兩京舍屋、其數甚多、其中八省院、豐樂院、東寺、西寺、極樂寺、清水寺、圓覺寺顛倒、地震之甚、未曾有矣、今日寄御輿於南庭、立幄爲御所、中宮廳前同以立幄、今日清水寺地震之間、縕素壓死之者、其數五十、

十九日甲寅、地震十四度、左衛門陣後廳、堀川院廊舍、閑院西對、顛宇、民部省舍三倒、

二十日乙卯、地震十一度、

二十一日丙辰、地震十三度、

二十二日丁巳、地震十二度、

兩日間、頻震不止、

二十三日戊午、辰刻日有蝕之、今日地震十度、

二十六日辛酉、未刻暴雨雷震、今日地震八度、

二十九日甲子、地震五度、

三十日乙丑、地震八度、

七月十一日丙子、地震六度、

十二日丁丑、地震四度、

十三日戊寅、詔書改天延四年爲貞元元年、依災並地震也、有

赦令、大內記紀伊輔作詔書、

十四日己卯、地震二度、

十八日癸未、大地震、

九月廿三日丙戌、地大震、其響如雷、

〔扶桑略記〕

貞元元年六月十八日、申時有大地震、內裡築垣頽、天下舍屋、京洛築垣、皆以頽落、主上爲遷幸堀河太政大臣家、立數百工

部令修理間、四面築垣忽倒、打殺工卅餘人、掘出十八人、又

御讀經請僧童子等被壓殺、崇福寺法華堂南方頽入谷底、時守

堂僧千聖、同入谷死、鐘堂顛倒、彌勒堂上岸崩、落居堂上、一

大石落打損乾角、又近江國分寺大門倒、二王悉碎損、國府廳並雜屋三十餘宇顛倒、關寺大佛悉碎損、腰上已無矣、其後一

同二年一月四日乙未、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>六</sub>

貞元二年二月四日乙未、己刻地震、

同月九日庚子、京都強震アリ、

〔日本紀略〕<sub>六</sub>

二月九日庚子、己時地大震、

天元元年十一月二十日辛丑、京都地震フ、

〔日本紀略〕<sub>七</sub>

天元元年十一月廿日辛丑、地震、

永觀二年十一月八日甲寅、京都地強ク震フ、

〔日本紀略〕<sub>八</sub>

永觀二年十一月八日甲寅、地大震、

寬和二年一月二十八日丁酉、是夜、京都地震フ、

〔本朝世紀〕<sub>四</sub>

寬和二年正月二十八日丁酉天陰雨降、亥二刻有地震事、

三月二十七日乙未、京都地強ク震フ、

〔本朝世紀〕

三月二十七日乙未天晴、已時有小振動事、自例已大振、

正曆元年十月二十五日丁卯、京都地震フ、

(日本紀略)九

寛和二年七月六日壬申、地震、

正曆元年十月廿五日丁卯、京都地震フ、

(日本紀略)九

正曆元年十月廿五日丁卯、地震、

同五年十月二十四日壬寅、京都地強ク震フ、

(日本紀略)十

正曆五年十月二十四日壬寅、地大震、有御卜、

長德二年四月二日壬申、京都地震フ、

(日本紀略)十

長德二年四月二日壬申、今日地震、

六月二十六日乙未、京都地強ク震フ、

(日本紀略)十

六月二十六日乙未、地大震、

同三年五月二十二日乙酉、京都地強ク震フ、

(日本紀略)十

長德三年五月廿二日乙酉、地大震、

同四年九月三日戊子、京都強ク震フ、

(日本紀略)十一

同四年四月二十日己巳、京都地震フ、

(日本紀略)十二

長和四年四月廿日己巳、寅刻地震、

同五年三月二十四日戊辰、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

長和五年三月廿四日戊辰、戌刻地震、

寛仁元年八月十八日癸未、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

寛仁八年八月十八日癸未、地震、

同二年九月二十五日甲申、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

寛仁二年九月廿五日甲申、地震、

十月十三日壬寅、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

十月十三日壬寅、地震、

治安二年十月二十三日己未、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

治安二年十月廿三日己未、卯刻地震、

同三年七月五日丁卯、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

治安三年七月五日丁卯、地震、

萬壽元年三月十七日甲辰、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

萬壽元年三月十七日甲辰、地震、

同二年十二月五日癸丑、京都地震フ、

〔日本紀略〕十三

萬壽二年十二月五日癸丑、地震、大雪、

同四年三月一日癸卯、京都地震強シ、

〔日本紀略〕十四

萬壽四年三月二日癸卯、申時大地震、

長元五年十一月十六日癸丑、駿河國富士山火ヲ

噴キ、延焼シテ山麓ニ至ル、

〔日本紀略〕十四

長元六年二月十日丙午、駿河國言上、去年十二月十六日、富

士山火起、自峯至山脚、

是歲、京都地震フ、

〔日本紀略〕十四

長元五年三月五日丙子、詔大赦天下、大辟以下罪常赦所不免  
赦除、又免調庸、老人僧尼給穀、依攘天下地震雷鳴之恠異也、

○地震ノ日、見ルトコロナシ、今姑ク是歲ニ掲グ、

震災豫防調査報告第十四號

甲

同八年十二月十四日甲子、是夜、京都地震フ、

〔日本紀略〕十四

長元八年十二月十四日甲子、夜地震、

同九年八月二十七日壬申、是ヨリ先京都地震フ、  
是日ヨリ三日ヲ限リ、爲ニ地動ノ祭ヲ行ハセ給  
フ、

〔範國記〕

長元九年八月廿七日壬申、亦自今日限三箇日、被行地動御  
祭、孝秀行事道政大祭料物六十六石、三箇夜祭之、爲地震所  
被行也、

○地震ノ日ハ見ル所ナシ、姑ク行祭ノ日ニ掲グ、

十二月二十二日丙寅、京都地震フ、

〔範國記〕

十二月廿二日、今曉地震尤甚、

長久元年六月二十七日庚戌、京都地震フ、

〔春記〕

長久元年六月廿七日庚戌、雨降終日不止、寅刻許有召參御  
前、被仰云、此曉夜大殿西戸並組入上、同以振鳴、而人之故推  
鳴、女房等聞之、或不覺、是怪也、今年重可慎也、惟異天變屢  
有其告、不快事也、可有御卜之由、可觸關白也、○中又有召參

略 中

御前、仰云、夜大殿戸鳴事、人々云是地震之所爲也、今曉  
有地震之故也、又從女院仰此旨、仍不可爲怪事也、不可觸關  
白也、

九月八日庚申、京都強震アリ、

〔春記〕

九月八日庚申、天晴、卯刻許地大震、

〔扶桑略記〕

長久元年九月八日、寅時大地震、

十月二十九日辛亥、是夜、京都強震アリ、

〔春記〕

十月廿九日辛亥天晴、今夜丑時許地大震、良久不休止、屋舍  
動搖、燈火或消滅了、予成人之後、未有如此之震動、心神失  
度、不知所爲、一時許乃休止、尤可怖畏事也、乍驚欲參内之  
處、風病發動、仍不能參入也、已及曉更、

十一月一日壬子天晴、早旦參内、依去夜地震事也、主上出  
御、仰云、今夜震動、惣無此比、殿屋震動、疑欲顛倒、怖畏無  
極、仍出寢所、殆及戸外、是心神迷亂之故也、前日天文奏云、  
及冬有地震歟、其事果然、○中抑又此地震後不經幾程、東一  
品宮北屋有火、火焰及數尺、宮人即撲滅畢云々、又自内有召  
參内、仰云、地震事尤可恐也、可有御祈歟、○中此由可示關白

長久元年、二年 永承五年 康平三年、四年、六年 治暦元年

六六

者、即參彼殿、關白被奏云、地震事、尤可恐思食事也、天文奏

今明進之歟、就彼奏文可有御祈也、

〔扶桑略記〕

十一月壬子、夜地大震、

○本書、一日壬子夜ニ掲グルハ非ナリ、

長久二年三月一日庚戌、京都地震フ、明日又震

〔如是院年代記〕

長久二辛巳三月一日、二日、地震、○和漢合

符同シ

七月二十日丁卯、丑刻京都強震アリ、法成寺ノ鐘

樓倒ル、

〔扶桑略記〕

長久二年七月廿日、丑刻地震、法成寺鐘樓顛倒、

永承五年十月七日辛酉、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

永承五年十月七日、地震、

康平二年六月十八日乙亥、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

康平三年六月十八日、寅刻地震有音、

○伊勢公卿勅使雜例、康平元年十一月二十八日宣命ニ天變地震ノ文アレド

モ、其日ヲ詳カニセズ、姑ク記シテ後考ヲ待ツ、  
同四年五月六日戊子、丑時京都地震フ、明日巳刻  
又震フ、

〔扶桑略記〕

康平四年五月六日、丑時地震、群鳥驚鳴、

七日、巳刻地震、

八日、有恩赦、依地震也、

同六年二月二十八日庚子、巳刻京都地震フ、明日

酉刻又震フ、

〔扶桑略記〕

康平六年二月廿八日、巳刻地震、

三十日丙戌、○是月ハ癸酉朔ナリ、丙戌酉刻地震、各有音、

ハ當ニ壬寅ニ作ルベシ、丙戌酉刻地震、各有音、

三月十一日癸丑、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

三月十一日、酉刻地震、

治暦元年三月二十四日甲申、是夜、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

治暦元年三月廿四日、戌刻地震、

五月七日丙寅、京都地震強シ、

震災豫防調査報告第十六號

甲

〔扶桑略記〕

五月七日丙寅、地大震、

同二年四月八日辛卯、京都地震フ、  
〔扶桑略記〕

治曆二年四月八日、卯時地震、

延久二年一月二十五日丁巳、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

延久二年正月廿五日、地震、

十月二十日丁丑、是夜、山城、大和兩國、地強ク震

ヒ、京都ハ家々ノ築垣ヲ損ジ、奈良ハ東大寺ノ巨  
鐘ヲ搖リ落セリ、

〔扶桑略記〕

十月廿日戊午朔、半夜地震動、洛中家々築垣、往々頽落、東大

寺洪鐘震零、諸國寺塔、間以壞損焉、

〔百練抄〕

延久二年十月廿日、大地震、東大寺鐘鈕切落、

〔年代記殘編〕

延久二年庚戌十月廿日夜、大地震動、東大寺洪鐘地落、

〔十三代要略〕

延久二年十月廿日夜、地大震、

〔榮花物語〕

そのとしの〇延久ふゆ、ぎおんやけぬ、〇十月十四日  
祇園社火アリ、あさましく  
くおもひがけぬことなりや、なるなどおどろおどろしくふ  
りて、むづかしさころおひなり、

〔諸法要略抄〕

四天王合行法

後三條院御宇、延久二年十一月二十一日、丑刻地震及數刻、

山洛無不恐怖、天文密奏陰陽勘文、兵革前瑞云々、仍以長宴  
于時權於台獄令修之、伴僧八口、○本書二十一日ニ作  
律師ハ誤ナルベシ、

同月二十三日庚辰、京都餘震時々震フ、

〔扶桑略記〕

廿三日、時々又震、

十一月二十一日戊申、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

十一月廿一日戊申、未刻地震、

承保元年一月二十日戊寅、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

承保元年正月廿日、寅時地震、

同月二十二日庚辰、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

甲

震災豫防調査報告第十六號

廿二日、巳時地震、

二月十二日辛巳、京都地震フ、  
〔扶桑略記〕

二月十二日、寅時地震、

三月二日、申時以下雪降、深四五寸、

九日、戌刻奇雲亘天、

同三年一月九日丙寅、是夜、京都地震フ、

〔扶桑略記〕

承保三年正月九日、亥時地震、

寛治五年八月七日癸亥、山城、大和兩國、地震強ク、法成寺ノ佛像、金峰山ノ金剛藏王寶殿等、多

ク毀損セリ、

〔扶桑略記〕

寛治五年八月七日癸亥、申刻有大地震、法成寺五大堂軍荼利<sup>丈</sup>被震倒、九重塔流星被震傾、金堂中尊寶幢瓔珞切落、講

堂中尊、藥師堂七佛光圓、堂寶形、常行堂壁並裳層等、皆以震損、又大和國金峰山金剛藏王寶殿、皆爲地震破損、古今未聞云々、

同六年十一月十日己丑、京都地震強シ、

〔扶桑略記〕

寛治六年十一月十日己丑、戌刻地大震動、群犬駭吠、同七年二月十四日辛酉、京都地震強シ、

〔扶桑略記〕

寛治七年二月十四日辛酉、未刻地大震動、屋内道俗、皆怖下庭、

永長元年十一月二十四日庚戌、京都、奈良地強ク震ヒ、東大寺ノ巨鐘又落ツ、餘動日ヲ涉レリ、

〔百練抄〕

嘉保三年○<sub>元年</sub>十一月廿四日、地大震、古今無比、人皆叫喚、主上御御船、

嘉保三年十二月十七日改元○<sub>永</sub>依天變也、

〔百練抄治承元年頭書〕

東大寺鐘落事、延久三年十月九日○<sub>二年十月廿日ナリ</sub>嘉保三年十一月

十四日○<sub>廿四日ナリ</sub>

〔康富記〕

嘉保三年十一月廿四日、辰尅大地震、殆及一時、天下貴賤、下立庭上、如嬰兒皆叫喚、主上御乘<sub>(舟カ)</sub>、八九十以上之者、不遇如此震動候由多申、大殿關白以下、令群參大内給、同廿八日、於兩殿下諸卿可有改元哉否事、豫被僉議、去廿四

日連日連夜小地震、世以爲恐、

十二月十五日、依十一月廿四日大地震、被始方々御祈、東大

寺千僧御讀經、權弁重資爲勅使於大極殿被行如說仁王會、於延曆寺以

六十口被轉讀大般若、又被始六觀音法、

同十七日、左大臣以下參仗座、定申改元事、震也江中納言擇

申爲永長、又八虐以下被赦免、強竊二盜非赦限、

康和五年四月二十二日庚午、京都強震アリ、

〔百練抄〕

康和五年四月廿二日、大地震、

同月二十四日壬申、京都地震フ、

〔百練抄〕

廿四日、同震、

五月一日己卯、京都地震フ、

〔百練抄〕

五月一日、又震、人怖畏太、

天治元年閏二月一日己酉、京都地強ク震ヒ、餘動

八日ニ至レリ、

〔百練抄〕

保安五年○天治元年閏二月一日、大地震、此後至八日有動、

長承元年九月八日乙丑、京都地震フ、  
〔中右記〕

長承元年九月八日、卯時地震、近日天變地變、尤有恐事也、

同月二十七日甲申、是夜、京都地震フ、

〔中右記〕

廿七日、戌刻小地震、

十二月六日壬辰、是夜、京都地震フ、

〔中右記〕

十二月七日、缺日白雪又積庭上、去夜之事地震、其聲甚大、近

日寒氣無極、

同二年八月二十八日庚戌、京都地震フ、

〔長秋記〕

長承二年八月廿八日庚戌、晴地震、

保延元年三月十八日辛卯、京都強震アリ、

〔中右記〕

保延元年三月十八日辛卯、此曉地大震、

廿八日、外記大夫師長來、知天文者也、問一〇地震事、申云、  
地ハ陰也、后宮大臣之慎也、

同二年一月二十八日丙申、京都地震フ、

甲

震災豫防調査報告第十四六號

〔中右記〕

保延二年正月廿八日、曉地震、

同三年七月十五日乙亥、京都地震強シ、餘震斷續  
シテ十二月三及ベリ、

〔中右記〕

保延三年七月十五日、申時地大震、近代未有如此事、其後度

度小地震、

十八日戊寅、辰時地震、

〔實能記〕

保延三年七月十四日陰天、地震、

十五日、申時許大地震、參內、諸卿參集、

十六日、地震、

十七日、朝間地震、此間打續地震度々、

十八日、辰時大地震、參院、

廿六日、少々地震、

廿七日、辰時許大地震、

八月三日晴天、地震、

九月廿九日天陰、地震、

十二月二日天陰、地震、

十一日天陰、地震少々、去自七月已下也、地震不時云々、

〔百練抄〕

保延三年七月十五日大地震、近代無比類、十六日度々又震、

康治元年三月十一日甲辰、京都地震フ、

〔本朝世紀〕

康治元年三月十一日甲辰、未刻地震、

八月十八日戊寅、京都地震フ、

〔本朝世紀〕

八月十八日戊寅、丑刻地震、

同二年二月十四日壬申、京都地震フ、

〔台記〕

康治二年二月十四日壬申、地震、

十月十日癸巳、京都地震強シ、明日又震フ、

〔台記〕

十月十日癸巳、大地震、

十一日甲午、地震、

十四日丁酉、十日十一日兩日地震、因之音樂可止否、勘例不  
憲、餘按春秋之義、以地震爲異、不爲災、仍不止之、

同月二十日癸卯、京都地震フ、

## 震災豫防調査報告第十四六號

(台記)

十月廿日癸卯、地震、

十一月二十四日丙子、京都地震強シ、

(台記)

十一月廿四日丙子晴、卯刻大地震、

同月二十六日戊寅、京都地震フ、

(本朝世紀)

康治二年十一月廿六日戊寅、卯刻地震、

天養元年四月十六日丁酉、京都地震フ、

(本朝世紀)

天養元年四月十六日丁酉、申刻地震、

(重憲記)

天養元年四月十六日丁酉晴、今日申時地震、

同月十七日戊戌、是夜、京都地震フ、

(本朝世紀)

四月十七日戊戌、寅刻地震、

(重憲記)

四月十七日戊戌、今夜寅時有地震、

五月十三日癸亥、京都地震強シ、

(本朝世紀)

五月十三日、辰刻大地震、

七月六日乙卯、京都地震フ、

(本朝世紀)

七月六日未刻地震、

同月十一日庚申、是夜、京都地震フ、

(本朝世紀)

十一日戌刻地震、

十二月七日癸未晴、京都地震フ、

(本朝世紀)

十二月七日癸未晴、申刻地震、

(重憲記)

久安元年二月十三日己丑、京都地震フ、

(本朝世紀)

久安元年二月十三日未刻地震、

(本朝世紀)

閏十月三日甲辰、京都地震フ、

(本朝世紀)

閏十月三日甲辰、申斜地震、

仁平三年九月二十一日丁未、京都強震アリ、

仁平三年 久壽元年、二年 永萬元年 治承元年、二年、三年

七二

(台記)

仁平三年九月廿一日丁未晴、今朝大地震、天慶元年群行日地震、見吏部王記今日亦地震、道不失先跡歟、○甘日群行アリ

久壽元年一二月十三日庚寅、京都地二回震フ、

(山槐記)

仁平四年○久壽元年一月十三日庚寅、口時地震、夜半地震、

同二年八月五日庚辰、京都地震強シ、夜又震フ、

(台記)

久壽二年八月五日庚辰、己時大地震、入夜復震、

(兵範記)

久壽二年八月五日庚辰天晴、地震、

永萬元年六月四日辛巳、京都強震アリ、

(山槐記)

永萬元年六月四日辛巳陰、卯上刻大地震、依參內云々、

同月五日壬午、京都地震フ、

(山槐記)

五月壬午、寅刻地震驚入云々、今日改元爲永萬元年云々

治承元年十月二十七日癸巳、是夜、奈良地強ク震ヒ、東大寺盧舍那佛ノ螺髮、及ビ巨鐘落チ、印藏

一角頽落セリ、

(百練抄)

治承元年十月廿七日、丑刻大地震、

東大寺言上、地震之間、大佛螺髮二口落觀音前、又頂上螺髮拔上、又大鐘釣切落大地、又印藏丑寅角頽落、是依敏覺之逆罪有怪異者、

同二年五月三十日癸亥、是夜、京都地震フ、

(山槐記)

治承二年五月三十日癸亥天晴、亥刻地震、

同三年五月二十八日乙酉、亥刻京都地震フ、

(山槐記)

治承三年五月廿八日乙酉、時大雨即休止入夜晴、今夜亥刻地

震云々、予不覺悟、

六月一日戊子、是夜、京都地震フ、

(山槐記)

六月一日戊子天晴、今夜丑刻地震云々、後日陰陽大夫安倍泰茂來云々、口廿八日地震、共金翅鳥動也、后宮御演也者、

同月十七日甲辰、京都地震フ、

(山槐記)

## 震災豫防調査報告第十四六號

十七日甲辰天晴、未刻地震、

(百練抄)

十一月七日辛酉、京都強震アリ、

壽永二年十月十四日、大地震、

(山槐記)

十一月七日辛酉天晴、亥刻大地震、

(東鑑)

元暦元年十月十五日庚午、鎌倉地震フ、

元暦元年十月十五日庚午、鎌倉地震フ、

同四年三月二十三日乙亥、京都地震フ、

(山槐記)

治承四年三月廿三日乙亥天晴、卯刻地震、

(東鑑)

(百練抄)  
治承四年三月廿三日卯刻地震、

(東鑑)

十一月二十六日甲戌、紀伊國熊野那智山、地強ク  
震ヒ、餘震三日ニ涉レリ、

(山槐記)

十一月廿六日甲戌、陰晴不定、風烈、後聲、自今日三箇日熊野  
那智地震、瀧壺石不動、自御目上撞破御云々、示法滅相歟、可  
悲云々、

十二月二十一日己亥、京都地震フ、

(山槐記)

十二月廿一日己亥天晴、酉刻地震、

壽永二年十月十四日乙巳、京都地震強シ、

## 甲 震災防調會報告第十四六號

被相殘、露盤八殘其上折落、阿彌陀堂並金堂之東西廻廊、鐘樓、常行堂之廻廊、南大門西門三字、北門一字、皆顛倒、無一字無門、築垣皆壞、南北面少々相殘云々、遣人令見之處、申旨如此、聞得長壽院千體正觀音  
鳥羽院御願顛倒云々、獻使者於入道大相國、院花山

尋申御所安否、東中門廊頽危、東子午透廊北車寄顛倒、四面

簣垣大略破壞、使者巡路見之申云、築垣等皆壞、法成寺內廻廊皆顛倒、東塔西塔未造畢、只  
有組物許不傾北傾、東面築垣皆壞、諸門無事、

南門築垣近日皆修理、十本許壞、又自京來人曰、五條攝政亭

當時坐  
近衛亭寢殿棟平伏、西子午透廊顛倒、四面築垣皆壞、凡京中築垣皆壞、舍屋多顛倒、又曰、主上先駕輿御庭中、次駕鳳輦御

中島、次依攝政被申云、呼帳於庭中、供大床子、終日御座、于

時皇后閑院也、又東隣入道殿松殿  
御座奉尋之處、御車宿顛倒、御車

打壓、北對贊殿傾危、上下又出庭云々、凡未會有震動也、終日

終夜猶有小動、上下或乘車、或構屋形在庭中、法皇構竹屋、御

座庭中云々、目眩頭痛、心神違亂、宵乘船之様、天下破滅、已

在此時歟、近年兵革、上下無安、今又有此譴、濁世惡業、衆生

苦患、無休之時、可悲々々、此家舍屋無殊損亡、壁上塗倍落、

築兩三本壞許也、北隣少將公衡朝臣送使驚示震動事、後聞字治橋皆以顛倒、于時渡之人十餘人、乘橋入水、其中一人溺死云々、又、聞近江湖水流北水減、自岸或四五段、或三四段、于

後日如元滿岸云々、同國田三町、地裂爲淵云々、又自美濃伯耆等國來之輩曰、非殊之大動、又後日聞、京中築垣、東西殊壞、南北面頽殘云々、

天文奏、後日尋取主稅助晴光續之、

謹奏案、

今月九日庚寅午時大地震、京洛地或坼或陷、及同十日辛卯連々震動、有音、

○以下勘文略ス

十日辛卯、陰晴不定、今日猶地震數十度、如當時大或小動無其隙、每度有音、終夜同動、

十一日壬辰天晴、今日猶地震數十度、每度有聲、終夜同、今日大夫大工經弘來、令推直東出居廊、

十二日癸巳、陰晴不定、地震二十餘度、地震事爲頭右大辨光雅朝臣奉行下賜官外記勘文可計申之由、被仰下、又皇居事、同可計申者、

十三日甲午、天晴、地震數度、但雖減於昨日、動搖之勢增、戌刻大動、

十四日乙未、天晴、地震如昨日、戌刻大動、

十五日丙申、陰晴不定、時々小雨、地震員數減昨日、於搖動之勢增、亥刻大動、增一昨日昨日兩夜、但不九日動、京中諸人、

## 震災豫防調査報告第十四六號

今日殊可大動之由、兼日謳歌、自今日予持佛堂始供花、

十六日丁酉、陰晴不定、地震五六箇度、

十七日戊戌、陰晴不定、地動四五度、密々見法勝寺破壞、可悲  
可悲、今日閑院當時皇居御殿棟折、釜殿屋顛倒云々、

十八日己亥、陰晴不定、地動四五度、

十九日庚子、陰晴不定、地震五六度、勢過昨日、

廿日辛丑、陰晴、地震四五度、

廿一日壬寅、陰晴不定、地震四五箇度、

廿二日癸卯、天晴、地震七八度、今朝有大動、但可及初度、又

無其程、今夜自閑院行幸左大臣亭、大炊御門北富小路西、閑院依地震破  
損殊甚、此亭築垣等雖破損、急被加修理云々、

廿三日甲辰、天晴、地震五六箇度、

廿四日乙巳、天晴、地震兩三度、

廿五日丙午、陰晴不定、小動兩三度、

廿六日丁未、天晴、早旦夜陰各一度地震、

廿七日戊申、陰晴不定、小動三箇度、

廿八日己酉、陰晴不定、地震兩三度、

廿九日庚戌、天晴、地震四五箇度、

八月一日辛亥、天晴、地震兩三度、

二日壬子、午後陰大雨雷鳴、朝夕兩度地震、

三日癸丑、陰晴不定、午刻大雨、小動一度、

四日甲寅、陰晴不定、地震三箇度、

五日乙卯、陰晴不定、時々小雨、地震一度、

六日丙辰、午後雨下、入夜小地震一度、

七日丁巳、午後雨下、地震二度、入夜其勢猛、

八日戊午、陰晴不定、地震三箇度、入夜其勢猛、雷鳴、

九日己未、陰晴不定、地震二度、

十日庚申、天晴、地震一度、

十一日辛酉、天晴、地震一度、

十二日壬戌、雨下、地震二箇度、其勢猛、

十三日癸亥、時々雨下、地動一度、

十四日甲子、天晴、今日有改元事、去月九日大地震以後、于今

不止、仍有此事、

十五日乙丑、午後雨下、地震一度、

十六日丙寅、陰晴不定、地動一度、

十七日丁卯、陰晴不定、地動三度、有勢、不拘文治、只待德政、

今如何、

十八日戊辰、天晴、

十九日己巳、天晴、今日不地震、但有聲、他方震事歟、自今夜

仁和寺御室、於院被行孔雀經法、地震御祈云々、

甲

## 震災豫防調査報告第十四六號

廿日庚午、天陰、午後雨下、

廿一日辛未、朝間雨下、今日地震一度、

廿二日壬申、天晴、午後地震、

廿三日癸酉、天晴、午刻著直衣自東山參院、前駕一人、盛房衣冠、今日被供養五輪一萬基塔、○中略說法之間有地震、

廿四日甲戌、天晴、地震二度、

廿五日乙亥、天晴、地震三度、

廿六日丙子、天晴、自去月九日、地震于今不止、仍自今月十

九日、於院御所六條北西洞院西仁和寺法親王令脩孔雀經法給、以寢

殿南面爲道場、今日有結願事、前權大納言兼雅卿、權大納言

忠親卿、民部卿成範卿、右衛門督家通卿、權中納言實宗卿、定

能卿、通親卿、經房卿、已上直衣參議親宗卿、東帶、通資朝臣、直衣、殿上人、或束帶、或衣冠宮內卿季經朝臣以下廿許輩參入、未刻被始行、日中時事了、右少辨定長東帶、奉行召藏人等、或束帶、或衣冠令卷南面並東戶御簾、定長又上大阿闍梨座、母屋西一間、副漫東西行敷之、退歸召公卿兼雅卿以下著簀子座、副東南面欄下敷高麗端帖、南榮立白陰、次藏人頭右大辨

光雅朝臣入東戶經伴僧座前、跪大阿闍梨御座東南邊、奉仰勸

賞事、觀覺實繼叙賜法眼之由也、光雅朝臣退歸之後、被始御

加持、事了、公卿自下臘皆起座、兼雅卿取大阿闍梨被物、季經

朝臣取裏物、忠親卿以下及殿上人等、取伴僧布施、終頭自西方

被引御馬二疋、一疋黑毛、右兵衛佐仲經、白襖狩衣、薄色奴袴、薄色靴、左近將曹下毛野敦佐黃木賊上下、白帷帶劍、引之、仲經上手、一疋葦毛、左

兵衛佐範行、二藍狩衣、薄色奴袴、上手引、各向御所引之、後引出東方、大阿闍梨御房官一人、立白單衣、帶、野劍、著淺履、左府生下毛野武安虫襖上下、白帷帶劍、

引之、範行上手、各向御所引之、後引出東方、大阿闍梨御房官一人、虫襖上下、白帷帶劍、進出中門西砌邊、各取御馬一疋、先取上手綱、次取合下手綱

引出之、次公卿退、次伴僧退、次定長奉法皇御旨、申大阿闍梨令參御前給、御對面之後、令出東門給、翌日自御室被仰云、候

幕中之間、外事委不見及、可注給者、仍如右注之、後日獻之、

地震事、至于今日四十七日間、一日不止、或四五度、或兩三

度、或大動、或小動、皆每度有聲、今日結願時間、振動非大非小、

廿七日丁丑、天晴、地震一度、

廿八日戊寅、天陰、自午刻許甚雨、今日有東大寺大佛開眼

事、地震一度、後日新藤中納言注送曰、午刻法皇臨幸、御步○中行、略

事體專不可然之上、地震未止、非無其恐者、法皇被仰曰、猶此

事欲遂也、已臨此庭了、希代事也、當其時地震、階壞失命者、

何爲不可爲悔者、差遣兵庫頭範綱被實檢之、全無恐由申、次

遣前上總守爲康、已上兩人、近習下臘也、次遣右少辨定長、皆申無恐之由

云々、

廿九日己卯、天陰、地震二度、

甲 防 調 查 會 報 告 第 四 十 六 號

卅日庚辰、天陰、夕小雨、今日地震不覺、而或曰、朝間一度動者、

九月一日辛巳、天陰、午後雨下、夜半地震、

二日壬午、陰晴不定、入夜雨、頃之止、子刻地震、中動也、

三日癸未、陰晴不定、未刻地震、中動也、

四日甲申、陰晴不定、今日不地震、

五日乙酉、雨下、早旦地震、秉燭止、早朝地震、

六日丙戌、天晴、地震、

七日天陰、

八日戊子、雨下地震、

九日己丑、天晴、

十日庚寅、雨下、地震三度、

十一日辛卯、天晴、

十二日壬辰、陰晴不定、

十三日癸巳、天陰、午後時々小雨、入夜又下、

十四日甲午、天陰、時々小雨、及晚地震、

十五日乙未、天晴、

十六日丙申、陰晴不定、

十七日丁酉、天陰、亥刻地震、

十八日戊戌、天陰、夕雨下、亥刻地震、

十九日己亥、雨下、午後止、亥刻地震、

廿日庚子、天陰、時々雨下、同二度地震、

廿一日辛丑、陰晴不定、時々小雨、

廿二日壬寅、天晴、

廿三日癸卯、天晴、未刻地震二度、

廿四日甲辰、天晴、

廿五日乙巳天陰、午後雨下、

廿六日丙午、雨下、申刻地震、中動、

廿七日丁未、天晴、

廿八日戊申、陰晴不定、亥刻地震、

廿九日己酉、陰晴不定、時々小雨、午刻地震、

〔東鑑〕

文治元年七月十九日庚子、地震良久、京都去九日午刻大地震、得長壽院、蓮花王院、最勝光院以下佛閣、或顛倒、或破損、又閑院御殿棟折、釜殿以下屋々少々顛倒、占文之所推、其慎不輕云々、而源廷尉六條室町亭云、門垣云、家屋無聊頽傾云云、可謂不思議歟、

三年五月十三日甲寅、閑院皇居、去々年七月大地震動之時破壞、可被加修造之由、有其沙汰、而彼時顛倒殿舍、同冬比被引直之處、清涼殿東西六箇間役、雖被充參河守範頽無沙汰、而

參向關東之由、有傳申二品之者、仍乍浴朝恩、懈緩國役、太無謂可有罪科之由、以此次被仰、參州殊恐申、今度造營之時、勵微力云々、

〔百練抄〕

文治元年七月九日庚寅、午時地大震、其聲如雷、震動之間、已送時刻、其後連々不絕、宮城瓦垣、並京中民屋、或破損、或顛倒、一所而不全、就中大內日花門、閑院西邊廊顛倒、法勝寺阿彌陀堂顛倒、九重塔破損、三面築垣皆以崩、得長壽院千所、自今日三箇日囁三口僧於御殿、有大般若御讀經、依此御祈也、

八月四日甲寅、北野祭被付社家、地震穢氣之間、諸司不供奉也、

七日丁巳、釋奠延引、依世間穢也、自去月九日、連日地震、于今不絕、

十三日癸亥、被立九社奉幣使、依地震御祈也、

十四日甲子、有改元、依地震也、

〔康富記〕

元曆二年七月九日、午刻大地震、如雷音、震動之間、已送時刻、其後連々不絕、宮城大垣、並京中人屋築垣、或破損、或顛倒、不勝計、一而不全、就中大內日華、閑院西透廊顛倒、法勝

寺阿彌陀堂顛倒、九重塔破損、三面築垣皆以崩、得長壽院千體堂顛倒、此外大小舍屋、神社佛寺、顛倒破損、殆不知先例、南殿前庭儲輕幄、爲御在所、自今日三箇日、囁三口僧於御殿、被行大般若御讀經、依地動也、同月十日、被行軒廊御卜、依地震也、同月十八日、被定地震御祈山陵使、並諸社諸寺御讀經時日僧名等、入夜有地震御祭、去九日以後、連日地震無不動之時、同月廿一日被立山陵使、同年八月九日記曰、自去月九日、連日地震、于今不絕、同十三日、依同事被立九社奉幣使、同十四日改元、改元曆二年爲文治、依大地震也、

同月十九日庚子、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

十九日庚子、地震良久、

建久二年三月六日甲寅、是夜、鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

建久二年三月六日甲寅、戌刻大地震、動、帝尺頗吉瑞也云々、

同六年三月十二日丁酉、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

建久六年三月十二日丁酉、朝雨霽、午以後雨頻降、又地震、○

震未ダ見ル  
所ナシ

正治元年一月一日癸巳、是夜、京都地震フ、

(玉海)

建久十年歲次己未、○正治元年正月大一日癸巳、甚雨、雷鳴殊甚、戌刻地震、此日日蝕也、

(明月記)

建久十年○正治元年正月一日癸巳、日蝕、自曉更陰雲忽疊、微雨頻灑、遲明以後甚雨、終日如注、臨昏雷電、地震、入夜天晴、

五月十六日丁未、是夜、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

正治元年五月十六日丁未、丑尅大地震、

建仁元年三月十日庚甲、鎌倉、地震フ、

(東鑑)

建仁元年三月十日庚申、卯尅地震、

同一年一月二十八日甲戌、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

建仁二年正月廿八日甲戌、卯尅大地震、辰一點、朝日見兩輪、

(東鑑)

十二月二十四日甲子、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十二月廿四日甲子、卯尅地震、雷鳴兩三聲、

元久元年十月六日乙未、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

元久元年十月六日乙未、亥刻大地震、

十二月二十七日乙卯、子刻京都強震アリ、

(仲資王記)

元久元年十二月廿七日乙卯、水滿、子刻許大地震、以外事也、

十二月二十九日丁丑、是夜、京都地震フ、

(明月記)

元久元年十二月廿九日丁丑、天晴、雪飛、入夜六角少將被

來談、○中東方有赤氣、亥時許地震、雖不及取曆、猶大震也、

十二月廿六日甲寅天晴、自秋比上邊水乾、此間已及此邊井悉乾、

承元元年四月九日甲寅、是夜、京都強震アリ、

(仲資王記)

承元元年四月九日甲寅、□□地震以外也、

(明月記)

承元元年四月九日天晴、過夜中大地震驚怖、

(東鑑)

同一年一月六日丙子、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

六月十六日庚申、陰、涼氣不似例年、頗如三四月、世上貴賤、多以病憐、

甲 震災豫防調査報告第十六號

承元元年正月六日丙子、陰、雪時々飛、午刻大地震、  
七月二十日丁巳、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

七月廿日丁巳、午刻地震、

同三年四月一日甲子、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

承元三年四月一日甲子、申刻地震、

同四年十月三日戊午、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

承元四年十月三日戊午、曉地震、

建暦元年一月二十七日辛亥、鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

承元五年○建暦元年正月廿七日辛亥、霧、寅尅大地震、今朝日無

光陰、其色赤黃也、

五月十五日丙寅、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

五月十五日丙寅、未刻地震、

七月三日壬子、鎌倉地震強シ、

〔東鑑〕

七月三日壬子、晴、酉刻大地震、牛馬騒驚、

建保元年一月一日癸卯、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

建暦三年○建保元年正月一日癸卯、天顛快霧、已尅地震、

五月二十一日辛酉、鎌倉地大ニ震ヒ、大地裂ケ、

舍屋破壊セリ、

〔東鑑〕

五月廿一日辛酉、午刻大地震、舍屋破壊崩地裂、於此境近代  
無如此大動云々、而廿五日內可有兵動之由、陰陽道勘申之云

云、

七月七日丙午、是夜、鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

七月七日丙午、晴、丑刻大地震、

八月二十九日丁酉、是夜、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

八月廿九日丁酉、天霧、亥刻地震、

九月十七日甲寅、京都地震強シ、

〔百練抄〕

建保元年九月十七日、巳時大地震有聲、

震災豫防調査報告第十六號

甲

同二年二月一日丙申、是夜、鎌倉地震フ、

(東鑑)

建保二年二月一日丙申、晴、亥刻地震、

二月七日壬寅、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

二月七日壬寅、晴、寅刻大地震、

四月三日丁酉、京都、鎌倉地強ク震フ、

(百練抄)

建保二年四月三日、今夜亥時地大震、

(東鑑)

四月三日丁酉晴、亥刻大地震、

九月二十一日癸未、是夜、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

九月廿二日癸未、酉、丑刻大地震、

同三年八月二十一日戊申、鎌倉地震フ、

(東鑑)

建保三年八月廿一日戊申、晴、未刻地震、

同月二十二日己酉、鎌倉地震フ、

(東鑑)

廿二日己酉、地震、

九月六日壬戌、丑刻鎌倉強震アリ、

(東鑑)

九月六日壬戌、晴、丑刻大地震、

同月八日甲子、寅刻鎌倉強震アリ、

(東鑑)

八日甲子、陰、寅刻大地震、

同月十一日丁卯、寅刻鎌倉強震アリ、續テ又震

フ、

(東鑑)

十一日丁卯、晴、寅刻大地震、未刻又小動、

同月十三日己巳、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十三日己巳、晴、未刻地震、

同月十四日庚午、鎌倉地二回震フ、

(東鑑)

十四日庚午、晴、酉刻地震、戌刻地震、同時雷鳴、

同月十六日壬申、鎌倉地震フ、

(東鑑)

甲

震災豫防調査報告第十四六號

十六日壬申、晴、卯刻地震、

同月十七日癸酉、鎌倉地三回震フ、

〔東鑑〕

十七日癸酉、晴、戌刻三度地震、

廿一日丁丑、晴、依連々地震、被行御祈、三萬六千神祭親職、  
地震祭宣賢奉仕之、駿河守季時沙汰之、江左衛門尉能範爲御  
使、

承久二年一月十一日癸卯、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

承久二年正月十二日癸卯、卯刻地震、

三月六日丙申、京都地震フ、

〔玉葉〕

承久二年三月六日丙申、天陰、午後雨降、未刻地震、

十二月二日戊午、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

十二月二日戊午、寅刻地震、

同三年一月二十九日甲寅、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

承久三年正月廿九日甲寅、午刻地震、

十月二日壬子、是夜、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

十月二日壬子、戌刻地震、

元仁元年五月八日甲辰、寅刻京都強震アリ、卯時  
又震フ、

〔古練抄〕

元仁元年五月八日、寅刻大地震、卯時又震動、

嘉祿元年一月十五日丙子、鎌倉地震フ、

〔東鑑脱漏〕

元仁二年○嘉祿正月十五日丙子、午刻地震、

三月十一日壬申、鎌倉地震フ、

〔東鑑脱漏〕

三月十一日壬申、寅刻地震、

五月十七日丁丑、鎌倉地震フ、

〔東鑑脱漏〕

五月十七日丁丑、巳刻地震、

十月十一日戊戌、子刻鎌倉強震アリ、

〔東鑑脱漏〕

十月十一日戊戌、子刻大地震、

震災豫防調査報告第十六號

甲

同二年三月二十九日甲申、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

嘉祿二年三月廿九日甲申、辰刻地震、

四月二十七日辛亥、鎌倉強震アリ、

(東鑑脱漏)

四月廿七日辛亥、晴、未刻大地震、

六月一十六日己酉、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

六月廿六日己酉、申刻地震、

同月二十七日庚戌、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

廿七日庚戌、申刻地震、

同月二十八日辛亥、子刻鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

廿八日辛亥、子刻地震、

七月一日甲寅、亥刻鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

七月一日甲寅、晴、亥刻地震、

八月一日甲申、鎌倉地震稍強シ、

(東鑑脱漏)

八月一日甲申、晴、子刻地震、大動也、

十月六日戊子、子刻鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

十月六日戊子、子刻地震、

安貞元年一月十四日甲子、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

嘉祿三年(安貞元年)正月十四日甲子、晴、午刻地震、

三月七日丙辰、是夜、鎌倉地震フコト烈シク、地  
裂ケ、所々ノ門扉築垣等顛倒セリ、

(東鑑脱漏)

三月七日丙辰、陰、戌刻大地震、所々門扉築地等顛倒、又地割  
云々、去建暦三年和田左衛門尉義盛叛逆之比、如此之有大  
動、中下馬橋之地割事有之、古老談之、近年無比類云々、

同月十五日甲子、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

十五日甲子、酉刻地震、

四月十三日辛酉、是夜、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

四月十三日辛酉、戌刻地震、

同月二十六日甲戌、是夜、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

廿六日甲戌、震、亥刻地震、

五月十一日己丑、鎌倉地震フ、

(東鑑脱漏)

五月十一日己丑、晴、未刻地震、

九月三日己卯、丑刻鎌倉地強ク震フ、

(東鑑脱漏)

九月三日己卯、晴、丑刻大地震、

十一月六日辛巳、鎌倉強震アリ、

(東鑑脱漏)

十一月六日辛巳、西刻大地震、左近將監親實爲奉行、連々地

震事被驚思食、云善政篇、云御祈禱事、可進意見之由、被仰諸

道云々、

寛喜元年十一月、是月、鎌倉地震フ、

(東鑑)

寛喜元年十一月廿六日、依地震、始行御祈等云々、

○地震ニ依テ祈禱ヲ行フ、ソノ小震ニ非ルコト知ルベシ、然レドモ本書殘闕  
シテ、コノ地震ヲ載セズ、今姑ク是月ニ掲ゲタリ、

文暦元年九月十六日壬子、京都強震アリ、

(百練抄)

天福二年〇文暦元年九月十六日壬子、寅刻大地震、萬人驚遽、占文

不輕、兵革大喪云々、

(一代要記)

文暦元年甲午十一月五日改元、依天變地震也、

嘉禎元年三月九日壬寅、是夜、鎌倉強震アリ、

(東鑑)

文暦二年〇嘉禎元年三月九日壬寅、晴、亥刻大地震、

同月十六日己酉、鎌倉地強ク震ヒ、餘震止マズ、

(東鑑)

十六日己酉、卯刻大地震、今日依天變妖等事、可有御祈禱德

(地脱力)  
政等之由、於武州御亭有其沙汰、師員朝臣爲奉行云々、

四月十三日乙亥、午刻地震、

廿八日庚寅、未刻地震、

廿九日辛卯、未刻地震、

卅日壬辰、巳刻地震、

五月一日癸巳、巳刻地震、

四日丙申、戌刻地震、

五日丁酉、午刻地震、

(東鑑)

七日己亥、午刻地震、

(東鑑)

八日庚子、依天變地妖事、可被行御祈禱德政等之由、內々有其沙汰、連日地震事、不有此例之由、古老之所談也、

六月十六日丁丑、地震御祈等始行、

(東鑑)

閏六月二十二日癸丑、鎌倉地震フ、

(東鑑)

閏六月廿二日癸丑、午刻地震、

九月一日辛酉、京都強震アリ、

(帝王編年記)

嘉祐元年九月一日、地大震、

(一代要記)

嘉祐元年乙未九月十九日改元、依天變地靈也、

同月二十九日己丑、子刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

九月廿九日己丑、子刻地震、

同二年二月二十八日乙卯、亥刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

嘉祐二年二月廿八日乙卯、亥刻地震、

六月十一日丙申、戌刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

六月十一日丙申、震、戌刻地震、

(東鑑)

同三年四月七日戊子、鎌倉地震フ、

六月一日庚辰、京都地強ク震フ、

(百練抄)

嘉祐三年六月一日庚辰、卯刻大地震、萬人驚恐之、元曆以後

無如此事、

九月十一日己未、子刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

九月十一日己未、子刻地震、

同月二十三日辛未、丑刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

廿三日辛未、丑刻地震、

同月二十四日壬申、子刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

廿四日壬申、子刻地震、

十月四日壬午、天變御祈等被行之、

曆仁元年十二月九日庚戌、鎌倉地震フ、

甲 防災豫報會第十四六號

(東鑑)

曆仁元年十二月九日庚戌、天霽、午刻地震、

延應元年十一月十一日丁丑、鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

延應元年十一月十二日丁丑、午刻大地震、

仁治元年一月十三日戊寅、鎌倉地震フ、

(東鑑)

延應二年○仁治元年正月十三日戊寅、辰刻地震、

十四日巳卯、於御所被行天地災變祭、維範朝臣奉仕之、將軍家出御祭庭、周防前司親實爲御使、

四月十八日壬子、鎌倉地震フ、

(東鑑)

四月十八日壬子、未刻地震、

(東鑑)

同二年一月十四日癸卯、是夜、鎌倉地震フ、

(東鑑)

仁治二年正月十四日癸卯、天晴、戌刻地震、今夕將軍家御祈被始行、百日天胄地府祭、晴繼朝臣奉仕之、

二月七日乙丑、巳刻鎌倉地震強シ、明日マデ五回

震フ、

(東鑑)

七月四日庚寅、子刻鎌倉地震フ、

七月四日庚寅、子冠地震、

二月七日乙丑、巳刻大地震、古老云、去建曆年中有如今之大動、即是和田左衛門尉義盛叛逆兆也、其外於關東未有如此例

云々、其後午時子刻兩度小動、

八日丙寅、巳刻地震、昨日兩日之間、動搖五箇度也、

三月六日甲午、鎌倉地震フ、

(東鑑)

三月六日甲午、辰刻地震、

同月十五日癸卯、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十五日癸卯、細雨灑、巳刻地震、

四月三日辛酉、鎌倉地強ク震ヒ、海嘯、由比濱ノ

八幡宮拜殿ヲ壞ル、

(東鑑)

四月三日辛酉、霽、戌刻大地震、南風、由比浦大鳥居内拜殿被

引潮流失、着岸船十餘艘破損、

廿七日乙酉、爲天變地妖御祈、於御所巽角被行天地災變之祭、泰貞朝臣奉仕之、將軍家出御其庭云々、

七月四日庚寅、子刻鎌倉地震フ、

十月十三日丁卯、亥刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

十月十三日丁卯、亥刻地震、

寛元元年五月二十三日戊戌、子一點鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

寛元元年五月廿三日戊戌、天霧、子一點大地震、

同二年六月十四日壬子、鎌倉地震フ、

(東鑑)

寛元二年六月十四日壬子、天霧、巳刻地震、

七月二日庚子、京都地震フ、

(百練抄)

寛元二年七月二日庚子、辰時地震、有聲、萬人遽恐之云々

九月十一日己酉、亥刻鎌倉地震フ、

(東鑑)

九月十一日己酉、亥刻小地震、

同月二十八日己未、鎌倉地震フ、

(東鑑)

廿八日己未、寅刻地震、

十二月一日丁卯、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十二月一日丁卯、天晴、卯刻地震、

同三年一月十八日甲寅、鎌倉地震フ、

(東鑑)

寛元三年正月十八日甲寅、天霧、卯刻地震、

同月二十日丙辰、京都地震フ、

(東鑑)

廿日丙辰、天霧、未刻地震、

三月九日甲辰、京都地震フ、

(百練抄)

寛元三年三月九日甲辰、午時地震、

四月五日己巳、戌刻京都地震フ、

(百練抄)

四月五日己巳、戌刻地震、

同月七日辛未、子刻京都地震フ、

(百練抄)

七日辛未、子刻地震、

同月二十八日壬辰、京都地震フ、

甲

震災豫防調査報告第十六號

(百練抄)

廿八日壬辰、巳刻地震、

五月八日辛丑、京都地震フ、

(百練抄)

五月八日辛丑、戌時地震、

同月二十六日庚申、京都地震フ、

(百練抄)

廿六日庚申、巳刻殊地震、

十二月二十日辛巳、鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

十二月廿日辛巳、午刻大地震、

同四年一月六日丙申、京都地震強シ、

(百練抄)

寛元四年正月六日丙申、申刻大地震、

五月七日甲子、鎌倉地震フ、

(東鑑)

寛元四年五月七日甲子、天晴、巳刻地震、

七月一日戊午、鎌倉地震フ、

(東鑑)

七月二日戊午、天晴、午刻地震、

同月五日辛酉、鎌倉地震フ、

(東鑑)

五日辛酉、天霽、巳刻地震、

十月十日乙未、京都地震フ、

(百練抄)

十月十日乙未、地震、

十一月二十七日壬午、鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

十一月廿七日壬午、寅刻大地震、

十一月五日庚寅、京都地震強シ、

(百練抄)

十二月五日庚寅、大地震、

寶治元年一月十三日丁卯、京都地震フ、

(百練抄)

寛元五年○寶治正月十三日丁卯、午時地震、

三月十三日丙寅、是夜、京都地震フ、

(百練抄)

三月十三日丙寅、今夜有鳴動地震、

六月十日辛卯、京都地震フ、

(百練抄)

六月十九日辛卯、辰刻地震有聲、

同月十九日庚子、京都地震フ、

(百練抄)

十九日庚子、午刻地震、

十月八日丁亥、鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

寶治元年十月八日丁亥、卯四點大地震云々、

十一月二十六日乙亥、丑一點鎌倉地震強シ、

(東鑑)

十一月廿六日乙亥、陰、丑一點大地震云々、

同月二十九日戊寅、京都地震フ、

(百練抄)

十一月廿九日戊寅、辰時地震、

建長二年七月十八日壬午、鎌倉強震アリ、餘震十

六度ニ及ベリ、

(東鑑)

建長二年七月十八日壬午、口尅大地震、其後小動十六度云

云、

同三年一月十九日庚辰、京都地二回震フ、

(百練抄)

建長三年正月十九日庚辰、地震兩度、

九月十七日甲戌、京都地震フ、

(百練抄)

九月十七日甲戌、午刻地震、

十月二十三日己卯、丑刻鎌倉地二回震フ、

(東鑑)

建長三年十月廿三日己卯、丑尅雷鳴一聲、地震兩度云々、

同四年五月七日庚寅、鎌倉地震フ、

(東鑑)

建長四年五月七日庚寅、天晴、巳刻地震、

同五年二月二十五日癸酉、鎌倉地震強シ、

(東鑑)

建長五年二月廿五日癸酉、霽、午尅大地震、龍神動、

四月三日丙辰、鎌倉地震フ、

(東鑑)

四月三日丙辰、晴、申尅雷鳴雨降、地震、

六月十日壬戌、鎌倉強震アリ、續デ一兩度又震

フ、

〔東鑑〕

六月十日壬戌、震、未尅大地震、近年無比類、又小選而小動一

兩度、

十三日乙丑、小雨降、爲地震御祈、於御所被行泰山府君祭、爲親朝臣奉仕之、  
後藤壹岐前司基政爲御使、

九月十六日辛卯、鎌倉地震フ、

〔東鑑〕

九月十六日辛卯、晴、午尅地震、入夜小雨灑、

同月十七日壬辰、京都地震フ、

〔百練抄〕

建長五年九月十七日壬辰、戌刻許地震、

同六年二月十九日壬戌、戌刻京都地震フ、

〔百練抄〕

建長六年二月十九日壬戌、戌刻地震、

十一月十八日丁巳、鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

建長六年十一月十八日丁巳、晴、酉尅大地震、

正嘉元年五月十八日壬申、子刻鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

正嘉元年五月十八日壬申、陰、子尅大地震、現度、被尋下之處、

晴茂朝臣兄弟七人連署勘申惡動之旨、廣賢申吉動之由、仍無

沙汰被閣云々、

八月一日癸未、戌刻鎌倉強震アリ、

〔東鑑〕

八月一日癸未、晴、戌刻大地震、

同月二十三日乙巳、戌刻鎌倉地大ニ震ヒ、神社

佛閣顛倒シ、山岳崩レ、平地裂レ、泥水ヲ涌出ス、

餘動月ヲ踰エタリ、

〔東鑑〕

廿三日乙巳、晴、戌刻大地震有音、神社佛閣、一字而無全、山  
岳頽崩、人屋顛倒、築地皆悉破損、所々地裂水涌出、中下馬橋  
邊地裂破、自其中火炎燃出、色青云々、

廿五日丁未、雨降、地震小動五六度、爲筑前次郎左衛門尉行  
賴奉行、依地震可致御祈禱之由、被仰下御持僧並陰陽道之  
輩、

九月四日乙卯、小雨降、申尅地震、去月廿三日大動以後、至今  
小動不休止、依之爲親奉仕天地災變、御使伊賀前司朝行云  
云、

廿四日乙亥、晴、依地震御所南方東方築地壩也、來々月一日

大慈寺供養以前、可被築地否、有其沙汰、召陰陽師被問方忌事、其間彼輩有條々相論、爲親廣資等申云、南御遊年方辰之

外無憚、東大將軍遊行之間、被修補無憚、本文先例分明也云云、晴賢晴茂晴憲以平文元等申云、是已大破也、自根可築上之間、可爲大犯土、不論大小、可有憚云々、亦進光榮有行泰親等朝臣勘文、泰親者、保元造内裏之時築垣、大將軍遊行之間、可被修理之由載之、而以平申云、不被用往代之例、近來可憚之旨有口傳云々、奥州前武州出羽前司等有評議、被止修復議、

(讚岐大日記)

正嘉元年(八九)二月廿三日、大地震、

十月十五日丙申、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十月十五日丙申、朝雨降、夕甚雨、雷鳴、申尅地震、

十一月八日己未、鎌倉地震頗ル強シ、

(東鑑)

十一月八日己未、大地震、如去八月廿三日、

同二年四月二十二日辛丑、鎌倉地震フ、

(東鑑)

正嘉二年四月廿二日辛丑、申尅地震、

十二月十六日辛卯、鎌倉地震フ、

(東鑑)

十二月十六日辛卯、天晴、寅尅地震、巳時雷鳴及數度、

文應元年三月二十五日壬辰、鎌倉地震フ、

(東鑑)

文應元年三月廿五日壬辰、晴、卯一點地震、陰陽道之輩、付勘文於和泉前司行方、

弘長三年五月十九日戊戌、鎌倉地震フ、

(東鑑)

弘長三年五月十九日戊戌、天晴、寅尅地震、

文永元年二月十一日丁巳、子刻京都地震フ、

(外記日記)乾

○本書ハ前田侯爵藏本ニシテ、乾坤二卷三分チ、乾卷ハ文永元年ヲ、坤卷ハ

文永三年、四年、弘安十年ノ三年ヲ收メタリ、

文永元年二月十二日丁巳、子刻小地震、

同月二十七日壬申、京都地震フ、

(外記日記)乾

廿七日壬申、寅刻地震有聲、

六月二十八日辛未、是夜、京都地震フ、

文永元年、二年、三年、四年、五年

九二

(外記日記)乾

六月二十八日辛未、今夜子刻地震フ、

八月十六日丁巳、京都地震フ、

(外記日記)乾

八月十六日丁巳、今日申刻地震、

同月二十五日庚寅、戌刻京都地震フ、

(外記日記)乾

廿五日庚寅、戌刻地震有音、

十月五日丙午、丑刻京都地震強シ、

(外記日記)乾

十月五日丙午、丑刻大地震有音、

同月六日丁未、丑刻京都地又震フ、

(外記日記)乾

六日丁未、丑刻又地震、

同月七日戊申、京都兩次地震フ、

(外記日記)乾

七日申、又兩度地震、

同月二十九日甲午、亥刻京都地震フ、

(外記日記)乾

廿九日申午、今夕亥刻地震、

同二年一月十五日乙酉、鎌倉地震フ、

(東鑑)

文永二年正月十五日乙酉、天晴、午尅地震、

三月九日戊寅、亥刻鎌倉強震アリ、

(東鑑)

三月九日戊寅、天晴、亥刻大地震、

四月六日乙巳、京都地震フ、

(外記日記)秘閣本

文永二年四月六日乙巳、午刻地震有聲、

同三年六月二十四日乙酉、子刻鎌倉地強ク震フ、

(東鑑)

文永三年六月廿四日乙酉、震、子刻大地震、

同四年十月九日壬戌、京都地震フ、

(外記日記)坤

文永四年十月九日壬戌、今日申刻地震、

同五年五月四日甲寅、京都地震強シ、

(吉續記)

文永五年五月四日晴、參内、辰刻大地震、權天文博士泰盛、内

内依召參仕、頭中將奉行云々、相具維弘參於便宜所、被尋地

震御卜趣、頭中將奉仰尋之、其趣凶也、殊公家御慎、諸凶事可

競起之趣見之云々、可有御祈、御祭何可宜哉之由被尋、天冑  
地府御祭可宜之由令申、予可申沙汰之由有仰、即問答泰盛朝

臣、可擇申日次之由仰之、明後六日可宜之由申之、可進支度之

由仰之、此趣御奏聞、件日御撫物御鏡斤可奉渡之由令申、爲勅

使相催六位、用途事内々圓滿院宮可有御沙汰之由有仰、定甚

深御沙汰歟、即支度内々進入、及深更祇候、時雨、定濟僧正勤

修金輪法、自去月勤行、有御聽聞、御加持之後、可誦尊勝陀羅

尼之由可仰旨、召予有仰、即仰此趣、大地震御慎之由見占文、  
殊可抽丹誠之由仰定濟僧正、及晚鐘退出、

〔帝王編年記〕

文永五年五月五日、辰刻地震動木枝、○五百二作  
ルハ非ナリ、

〔續史愚抄〕

文永五年五月四日甲寅、地震樹動、權天文博士泰盛朝臣占

曰、公家御慎、及諸凶災可起者、權僧正定濟兼所勤仕御祈、自

今日依地震事、可修尊勝陀羅尼由被仰、奉行藏人中宮權大進

經長、吉續記、歷

〔吉續記〕

五月六日晴、參内、今日天冑地府御祭也、勅使藏人邦廣持向御撫物、一日御祭  
也、御精進不憚魚味、兼相尋泰盛、

〔帝王編年記〕

五月六日丙辰、爲地震御祈、權天文博士泰盛朝臣奉仕天冑地府祭、勅使藏人

邦廣持向御撫物於館、奉行藏人中宮權大進經長、宮中御修法結願、吉續記、歷  
代編年、

同六年十一月十六日丁巳、近江國日吉社振動、シ

テ懸魚落ツ、

〔一代要記〕

文永六年十一月十六日、辰刻日二宮振動三度、懸魚火釘切而

落地、

同十年三月九日壬戌、會津強震アリ、

〔異本塔寺長帳〕

文永十年癸酉三月九日、大地震、

是歲京都地數震フ、

〔續史愚抄〕

今年、文永十一年地震數度、又饑、或記、吉續記、增鏡、一代要記、

弘安十年九月二日庚寅、京都地強ク震フ、

〔外記日記〕坤

弘安十年九月二日庚寅、午刻大地震以外也、

同月三日辛卯、子刻京都地震又強シ、

〔外記日記〕坤

三日卯、子刻大地震有音、

元亨三年五月三日甲午、鎌倉強震アリ、

正中元年十月廿一日、大地震、竹生島ノ奥ノ院秘所、崩テ湖ニ入、

〔武家年代記〕

元亨三年五三、未刻大地震、

正中元年十一月甲辰、地大震、竹生島崩、半沒琵琶湖、

正中二年十月二十一日戊戌、是夜、近江、山城二國、地震フコト強ク、竹生島及ビ荒地中山崩レタリ、

〔園太曆〕康永四年條、

正中二年乙丑十月廿一日、大地震、自子初分至于卯終輪燈十二悉消、常燈過半失照用、雖然依光耀不盡、參堂禪徒挑之、

〔續史愚抄〕

正中二年十月廿二日己亥、今夜大地震、自子刻至卯刻云、或作廿一日、誤歟荒地

参考中山崩、日吉八王子御正體墮、同社燈籠火滅、延暦寺十二輪燈悉滅、但常燈內有光曜、未盡、參堂價挑之由、後日言之、

治承元十廿七、同三十一七、文治元七九等有例云、又竹生島

損者、道平公記、園太脣追康永

〔皇代記〕群書類

正中三年四月廿六日、依疾疫流行並去年大地震改元、

〔塔寺八幡宮長帳〕

〔續本朝通鑑〕

正中元年十一月甲辰、地大震、竹生島崩、半沒琵琶湖、  
○長帳、通鑑ノ、前年十月、十一月ノ事ト爲スハ非ナリ、續史愚抄、道平公記ニ據リ明夜ニ掲ゲタレド、未ダ本書ヲ見ザレバ、姑ク園太曆ニ據リ、是日ニ掲ゲタリ、

元弘元年七月三日丁丑、紀伊國地大ニ震ヒ、千里濱ノ干潟、隆起シテ陸地ト爲レリ、

〔参考太平記〕

元弘元年金勝院本作元弘二年、北條家本及神明鏡作元德二年、恐非也、說見前七月今川家本作十月非也三日 大地震有テ、紀伊國千里濱ノ遠干潟、俄ニ陸地ニ成事、二十餘町ナリ、

〔神明鏡〕

元德二年十月二日、大地震、紀州千里濱邊、俄ニ陸地成事、廿餘町、

〔櫻雲記〕

元德二歲十月三日、大地震、紀州千里濱、陸地トナル、凡廿四町、

○神明鏡ノ誤ハ、太平記既ニ之ヲ辨ゼリ、櫻雲記、前年ニ係ゲシモ、亦誤ナラン、

七月七日辛巳、駿河國地震ヒ、富士山數百丈崩レ

甲 災豫防調會報第十六號

タリ、

〔参考太平記〕

又同七月七日ノ西ノ刻ニ、地震有テ、富士ノ絶頂崩ル事、數百丈ナリ、ト部宿禰大龜ヲ焼テトヒ、陰陽博士占文ヲ開テ見ルニ、國王位ヲ易、大臣災ニ遭トアリ、勘文ノ面穩ナラズ、尤御慎有ベシト密奏ス、

○毛利家天正本ニ云、ト部宿禰陰陽博士共ニ勘文ノ面穩ナラズ、最御慎アルベシト密奏ス、君臣一時ニ驚テ、寺々ノ火災、所々ノ地震、徒事ニ非ズ、去年<sup>按衍</sup>夏ノ比ヨリ玉體御不豫ノ事有テ、<sup>按鏡元弘元年夏帝有病</sup>近臣又關東ヘ召下サレ、誅戮ノ罪責ニ當ル、<sup>按後基事也</sup>其上天下尙危ヲ踏テ、今ヤ不思議ノ出來ラント、人々驚テ、斯テハ如何有ベシトテ、元徳三年ヲ改テ、元弘元年トゾ申ケル云々、<sup>皇年代略記、公卿補任云、元徳三年八月、改元元弘、</sup>

〔神明鏡〕

元徳二年十月七日、地震、富士禪頂崩事數十丈也ト云リ、<sup>(絶カ)</sup>

〔櫻雲記〕

元徳二年十月七日、又大地震、富士絶頂、百餘丈崩、

○神明鏡櫻雲記並ニ元徳二年十月ニ係ク、二書往々錯誤アリ、今姑ク太平記ニ從ヘリ、

建武元年八月二十七日壬午、京都地震強シ、

〔皇年代私記〕

建武元年八月廿七日、大地震、

〔皇年代私記〕

十二月十三日丁卯、京都地震強シ、

十二月十三日、大地震、

〔續史愚抄〕

建武元年十二月十三日丁卯、地震、<sup>皇年私記</sup>

延元三年<sup>北朝暦元年</sup>七月十九日壬子、京都強震アリ、

〔皇年代私記〕

曆應元年七月十九日、甲午朔、大地震、

同月二十二日乙卯、京都地震フ、

〔皇年代私記〕

廿二日、地震、

同四年<sup>北朝暦二年</sup>九月四日庚申、子刻京都地震フ、

〔師守記〕

曆應二年九月四日庚申、天晴、今夜子刻許地震甚、

十一月七日壬戌、鎌倉地震フ、

〔鶴岡社務記錄〕

曆應二年十一月七日、未刻鳴動、

興國元年北朝暦應三年一月二十六日庚辰、京都地強ク震  
フ、

〔師守記〕

曆應三年正月廿六日庚辰、天晴、入夜吹風、今日酉刻大地震、

同二年北朝暦應四年一月十三日辛卯、京都地震フ、

〔師守記〕

曆應四年二月十三日辛卯、天陰、雨雪降、未刻以後一向雨降、

今日未刻許地震、

三月八日乙卯、鎌倉強震アリ、

〔鶴岡社務記錄〕

曆應四年三月八日、大地震、

九月十六日庚寅、京都地震フ、

〔武家年代記〕

曆應四年九十六、地震、

〔續史愚抄〕

興國二年北朝暦應二年九月十六日庚寅、地大震、武家年代記

同三年北朝暦應二年六月十五日乙卯、京都地震フ、

〔師守記〕

興國元年、二年、三年、五年、六年 正平元年

康永元年六月十五日乙卯、天晴、今日午刻地震、  
同五年北朝暦永三年一月十二日癸酉、京都地震フ、

〔師守記〕

康永三年正月十二日癸酉、天晴、朝間雪降、今日午刻地震、

九月九日乙未、是夜、京都地震フ、

〔師守記〕

九月九日、今夜子刻地震、

同六年北朝暦和元年六月七日己未、京都地震フ、

〔師守記〕

貞和元年六月七日己未、天陰、雨降、甚雨、申刻許地震、

八月十七日戊辰、京都地震フ、

〔師守記〕

八月十七日、酉刻地震、

〔皇年代略記〕

貞和元八十七、地震、

正平元年北朝暦和二年八月四日庚戌、京都地震強シ、

〔園太曆〕

貞和二年八月四日丁未朔、天晴、丑刻許大震、

十九日、天晴、入夜大外記師利入來○中語曰、今月四日申刻中

甲 防 調 會 報 告 第 四 十 六 號

御門堀川以西至大宮大路、羽蟻出現、如煙霞、路人不通得云  
云、

十一月二十三日丁卯、京都地震フ、

(續史愚抄)

正平元年<sup>北朝貞和二年</sup>十一月廿三日丁卯、有地震占文云、未詳

閏目

十二月二日丙子、京都地震フ、

(皇年代私記)

貞和二年十二月二日、地震、

同一年<sup>北朝貞和三年</sup>一月十五日戊午、京都地震フ、

(園太曆)

貞和三年正月十五日甲辰朔、天晴、今日巳刻許地震、

同月二十日癸亥、京都強震アリ、

(師守記)

貞和三年正月廿日、午始地大震、

同月三十日癸酉、京都地震フ、

(師守記)

卅日癸酉、天陰、至未刻雪降、及晚晴、今曉卯刻地震、

五月六日戊申、京都地震フ、

(園太曆)

五月六日、天陰、今曉地震、月在張宿、

(師守記)

五月六日戊申、天陰、辰刻以後雨降、今曉寅刻地震、

(皇年代略記)  
群書類  
從所載

貞和三年五六、大地震、

六月二十七日戊戌、是夜、京都地震フ、

(師守記)

六月廿七日戊戌、天晴、今夜子刻許大地震、

(續史愚抄)

正平二年<sup>北朝貞和三年</sup>六月廿八日己亥、國弘朝臣有俊朝臣等、進天

變地震日次及事缺等占文、園目

八月二十八日丁酉、京都地震フ、

(師守記)

八月廿八日丁酉、天陰、雨降、及晚止、今朝巳刻地震、

九月二十三日壬戌、京都地震フ、

(師守記)

九月廿三日壬戌、天陰、雨降、今日申刻地震、

十月三日壬申、京都地震フ、

(師守記)

十月三日壬申、今日亥刻地震、

同月四日癸酉、京都地又震フ、

正平二年、三年、四年、五年

## 〔師守記〕

四日、今夜亥刻許地震、

## 十一月十六日甲寅、京都地震フ、

## 〔師守記〕

十一月十六日甲寅、天晴、今日酉刻地震、

## 同月二十日戊午、京都地震フ、明日又震フ、

## 〔師守記〕

廿日戌午、天晴、今日巳刻地震、

廿一日己未、天陰、午刻以後雪降、終日不休、四寸許委地、今

日午刻地震、

## 十二月十八日丙戌、京都地震フ、

## 〔園太曆〕

十二月十八日、天晴、抑今曉寅刻有地震云々、

## 〔師守記〕

十二月十八日丙戌、今曉地震、

同三年和四年<sup>北朝貞</sup>一月十日丁未、京都地震フ、

## 〔園太曆〕

貞和四年正月十日、天陰、寅刻歟有地震、

同四年和五年<sup>北朝貞</sup>四月十三日癸酉、京都地震フ、明曉又

## 震フ、

## 〔師守記〕

貞和五年四月十三日癸酉、(頭書)今日戌刻地震、

十四日甲戌、(頭書)今曉寅刻地震、

## 七月十九日戊寅、京都地震稍強シ、

## 〔師守記〕

七月十九日戊寅、天晴、今日未刻大地震移刻、

## 〔皇年代私記〕

貞和五年七月○或作六月、誤、十九日、地震、

## 〔續史愚抄〕

七月十九日戊寅、未刻地震大動有音、(或作六月、謬矣、○園太曆、皇年私記、○

同五年<sup>北朝觀</sup>五月二十三日丁丑、京都地強ク震ヒ、

祇園社石塔ノ九輪墜碎セリ、餘震月ヲ踰ユ、

〔康富記〕近例  
〔大地震〕

觀應元年五月廿三日、大地震、

六月廿二日、大地震、

七月卅日、被行七佛藥師法、依地、

八月廿四日、被始十社御讀經、地震御祈也、

## 〔祇園執行日記〕

## 震災豫防調査報告第十四六號

貞和六年五月廿三日、申刻大地震、酉了小動數反、申刻震動之時、百度大路石堂塔九輪落碎了、希代大震動也、條々凶不輕云々、珍事々々、

廿五日、申刻大地震、火神動、同一昨日、

廿九日、寅刻地震、午刻又地震、天王動也、

六月十日、酉刻地震、

十一日、辰刻地震、

廿日、今曉卯刻地震、

廿二日、亥刻大地震、火神動、不吉動也、

廿五日、辰刻地震、又未刻震、

〔天正本太平記〕○参考太平記所載

貞和六年五月廿日、戌時大地震有テ、山谷ヲ穿チ、大地モ裂

テ、行旅座壇ノ人々モ、心神ヲ惱ス、

○二十日ハ廿三日ノ誤ナリ、續史愚抄、大日本史、其誤ヲ襲フ、

〔續史愚抄〕

正平五年五月廿日甲戌、或記地震云、北朝觀元年  
天正本太平記

廿三日丁丑、申刻大地震、塔婆九輪多墮、後日天文博士安倍晴經及泰久周言等、進勘文、言火神動、天子御慎不輕、及喪事

飢餓兵革已下凶兆者、覺雄僧正記、康富記追、祇園執行日記、南西雜錄、醍醐雜錄、祇園執

廿五日己卯、地震大動、祇園執行日記、

六月十九日壬寅、此日於左馬頭義詮朝臣三條坊門第、行五壇法、中壇阿闍梨前大僧正增基、是去月大地震祈謝云、五大成覺、雄僧正記、

正平五年庚寅夏五月廿日甲戌、京師地大震、天正本太平記、

廿三日丁丑、京師地大震、醍醐雜錄、祇園執行日記、

〔皇年代略記〕

觀應元五廿九、寅刻午刻申刻三箇度地震、

〔皇年代私記〕

七月一日乙卯、京都餘震猶ホ震フ、

〔園太曆〕

觀應元年七月二日乙卯、天晴、今日申初東南方有音、其後地震、已及卅餘日、兆不從沒、尤可畏事也、(徒カ)

十二日乙丑、天晴、今日爲被申地震事、上皇被獻御書於山陵、可爲五陵之由、兼有沙汰、而使不足三陵、三陵其所々可尋、爲御拜出御、御簾春宮大夫參仕、歸來云、御拜之間甚雨、公私舐鼻云々、

〔皇年代略記〕

七月二日、申亥兩刻地震、戌刻將軍墓鳴動以外也、

〔皇年代私記〕

七月十二日、自仙洞○光嚴院依地震被發遣山陵使、

〔續史愚抄〕

八月廿四日丁亥、依地震事被行十社御讀經云、康富記追、

十一月十四日乙丑、京都地震フ、

〔園太曆〕

十一月十四日、天晴、今日午刻地震、後日泰尙朝臣云、天王所

動也、

〔續史愚抄〕

十一月十四日乙丑、地震、王動、園太

同六年北朝觀應二年二月十九日乙丑、京都地強ク震フ、

〔皇年代略記〕

觀應二年二月十九日、地大震、

〔皇年代略記〕

三月十七日丙寅、是夜、京都地震フ、

〔皇年代略記〕

三月十七日天變、今夜又地震、

四月十一日庚寅、京都地震フ、

〔皇年代略記〕群書類從所載

四月十一日、辰刻地震、

九月十一日丁巳、京都地震フ、

〔醍醐地藏院日記〕

觀應二年九月十一日、午刻地震有音、

十一月十九日乙丑、京都地震ヒ、續震兩三回ア

リ、

〔園太曆〕

觀應二年十一月十九日、天陰、午後地震、其後兩二度、

同七年北朝文和元年一月一日丙午、京都地震フ、

〔園太曆〕

觀應三年文和元年正月一日、自舊歲風雪、及今朝滿地四五寸、漸表豐年之瑞、可謂新陽之慶、

今朝辰尙地震、

同月十五日庚申、京都地震フ、

〔園太曆〕

十五日、天晴、今曉寅刻又地震、天下體此上何徵哉、

閏二月十五日己未、京都地震フ、

〔園太曆〕

閏二月十五日、天晴、酉刻地震、

同十年北朝文和四年十一月十八日庚子、京都地震フ、

〔園太曆〕

文和四年十一月十八日庚子、天晴、今日午刻地震有音、

同十一年北朝文元年五月九日己丑、京都地震フ、

震災豫防調査報告第十四六號

甲

(愚管記)

延文元年五月九日己丑、雨降、今曉卯刻地震、天王所動云々、

同月十一日辛卯、京都地震フ、

(愚管記)

十一日辛卯、晴、未刻地震、水神動云々、

七月三日辛巳、京都地震フ、

(愚管記)

七月三日辛巳、晴、丑時地震、

(園太曆)

延文元年七月三日、天晴、丑刻地震、

同月八日丙戌、京都地震稍、強シ、

(園太曆)

十六日天陰、(主御門)泰尙朝臣注申先日地震趣事、

地震の占文、かやうにかきをきて候を、御つかひ候はで、

いままでうちをきて候、おそれ入て候、ちかくはこれ程の大動は候はず候、返々以外存候、そのうちも小動は大略毎日候へども、占文は大概おなじ事にて候、其外變異もたえず候、おぞろき入て候、○中略、月蝕の事を記せり、かたゞ御ふみにつくしがたき事のみ候、いかさまにもこの程にまいり候て、よろづ申入べく候と、御ひろう候べく候、あながしこ、

御文はし返々おそれ入て候、八日の地しんはとらの時など申候へども、なをうしの時にて候かし、

同月十一日己丑、京都兩次地震フ、

(愚管記)

十一日己丑、陰晴不定、寅刻地震兩度、動搖之間良久、

八月十一日庚申、京都地震フ、

(愚管記)

八月十二日庚申、雨降、午刻地震、

十三日辛酉、泰尙朝臣申云、昨日巳刻地震、水神所動云々、

(園太曆)

八月十八日條

○上 恐鬱候間畏承し、地動連續恐怖無極に、吉動も不如不動

之由今申候歟、變異又重承、○下

○上文ニ依レバ、此頃數々地震アリシコト明カナリ、

九月十五日壬辰、京都地震フ、

(愚管記)

九月十五日壬辰、晴陰不定、今日卯刻地震、

同十二年北朝延文二年一月十八日癸巳、是夜、京都地震フ、

(愚管記)

延文二年正月十八日癸巳、陰、丑刻許地震、

七月一日甲戌、京都地震フ、

(續史愚抄)

正平十二年北朝延文二年七月一日甲戌、地震、後日有占文、園目、

閏七月十七日己未、京都地震フ、

(園太曆)

延文二年閏七月十七日、天晴、今曉寅刻地震有音、

九月十一日壬子、戌刻京都地震フ、

(園太曆)

九月十一日、天晴、戌刻地震、